

みたけ夢だより

横浜市の歴史

12月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/mitakedai/>

歴史を刻んで

校長 谷口 佐智子



東門の桜も一気に葉が落ち、枯れ木になって冬らしい様子になりました。子どもたちの姿も急に長袖や厚着になり、「手が冷えた。」と言いながら、坂道を上って登校しています。

子どもたちは、学校の門の前で友達に会うと、嬉しそうに手を振ったり、話しかけたりしています。先日、一年生の会話が聞こえました。「今日ね。新しい靴、履いてきたんだ。」「そうなの。いいね。」と言って、並んで歩き始めました。何てことのない普通の会話なのですが、二人の笑顔を見て、朝からほっこりしてしまいました。子どもたちの笑顔にいつも元気をもらえます。

11月の週末は、周年行事をする学校が多く、私も参加をしてきました。近隣では鉄小学校の150周年記念式典です。卒業生の方々が地域に根付き、何代にも渡って鉄小出身であることも伺いました。来賓など招待されていた方々が晴れやかに校歌を歌う姿からも「鉄プライド」という歴史と伝統の重みを感じました。因みに、みたけ台小学校は、迎えば鉄小学校からの分校です。前任校の高田東小学校は50周年記念式典です。子どもたちが学校の誕生日を祝う様子が伝わってきました。一年生が学校のシンボル「ソノツツの木」の実を育てたり、六年生が学区のケーキ屋さんと一緒に商品開発を行い、記念のケーキを創作したりしていました。

どちらの学校に参加しても、地域の方や卒業生達が話していたことは「子どもは地域の宝。大切に育てていきましょう。」ということでした。ひとくくりに何十年と言っていますが、その中には一人ひとりの人生があって、卒業しても継続しています。

また、ある卒業生のメッセージの中で、「夢に向かって取り組む時、野球選手になるには野球ばかりではなく、一見関係のないようなことにも挑戦してほしい。例えば、友達とたくさん話をするとか、元気いっぱい遊ぶとか。そんな中から大切な繋がりや力かが付き、どんな夢にも通じることになる。」という話がありました。私も思えば、困ったときに支えてくれたのは同級生の友達だったり、授業づくりの名案が学校の中に行かない時に浮かんだりします。道は真っ直ぐな一本道ではないし、寄り道や遠回りにもきっと意味があるはずですよ。

同じ地域に住んでいて偶然に同じ学校で学ぶことになったのかもしれないかもしれませんが、それでも「学校に来れば・・・」「友達と過ごせば・・・」「学びを深めれば・・・」昨日より今日、何かを得られると思うのです。

そのために学校は安全や安心で、子どもたちが笑顔で学ぶところでないといけません。「みたけ」のまちや地域の方々のあたたかさにも応えていきたいです。あたたかい学校づくり、子どもたちが自ら学ぶ授業改善など、もっと頑張っていかなければと、校長として改めて気を引き締めました。

子どもたちの一日ずつの積み重ねが毎日の歴史を刻んでいます。運動会や校外学習など特別な行事などはもちろんですが、何てことのない一日も貴重な歴史になるのだと思います。子どもたちの笑顔が学校の財産です。

みたけ台小学校は、3年後に50周年です。毎日、明るい歴史を刻んでいきたいです。

